

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中濃特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年10月23日(木) 9:30～11:30
- 3 開催場所 中濃特別支援学校学校特別棟会議室
- 4 参加者

会 長	大谷 弘	各務原市手をつなぐ育成会理事長
副会長	加納 稔	中央工機株式会社社長
委 員	市原 真紀	ひまわりの丘第一学園園長
	梅田 美保	美濃市ひばり園サービス管理責任者
	西村 健太	一般社団法人関青年会議所理事長
	安井 晴哉	向山自治会長
	中田 智香	同窓会後援会会長
	小田 晶子	P T A会長
	遠座 未菜	中部学院大学短期大学幼児教育学科講師

学 校 側	垣添 奈巳	校長
	平野 直子	副校長
	高井 和彦	事務部長
	遠藤 衣代	教頭
	長屋 陽子	小学部主事
	亀谷 真也	中学部主事
	酒井 健志	高等部主事
	外村 良文	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和7年度学校評価アンケートについて

○集計結果と考察について説明

意見1:保護者への文書は、(文字ばかりではなく)映像、イラスト、グラフなどを用いて、興味を引いて分かりやすいように工夫するとよい。

意見2:生徒アンケートは生徒の立場に立って分かりやすく表現を工夫することが大切である。

意見3:生徒アンケートに「教師への信頼」という言葉が使われる質問があるが、イメージが持ちにくいのではないかと。「いつも挨拶してくれる」とか「声掛けが優しい」という表現のほうが分かりやすい。

意見4:保護者アンケートの回答が「わからない」となる要因について、学校の発信が足り

ていないのか、保護者の関心が薄いのか、その理由が分かると効果的な改善策へと繋がる。

意見 5 : (保護者に学校の取組を知ってもらう方法として) 保育現場では、手書きの連絡帳やお便りではなく、アプリで保護者に写真と文章を送っている。ICT活用は職員の業務軽減に繋がる。

意見 6 : 学校評価アンケートの質問について、特別支援学校には、中度、重度の障がいの児童生徒が多く、「進路＝仕事、働く」というイメージの質問では、卒業後の生活の実態と結び付きにくく、アンケートに答えにくい場合がある。卒業後の生活には、事業所の利用や余暇活動など多様な側面があるため、進路のイメージを広げることが大切である。

○今後の取組について

意見 1 : 地域の高齢者との取組は学校と高齢者の両方にとってよい話なので期待している。

意見 2 : 地域の高齢者は、園芸や木工(作業班)などで生徒と交流したいとの要望をもっている。

意見 3 : 私たちの団体では「動心」という活動をしている。人が動く原動力は何かを楽しみたいという気持ちから始まる。保護者も交えて一緒に楽しめる活動があるとよいかもしれない。

意見 4 : けん玉やお手玉など、昔ながらの遊びを高齢者との交流活動にするなど、地域の方の技や経験を生かすとよい。

意見 5 : 障がいのある子をもつ親の気持ちとしては、居住地域に気軽に行ける場があるとありがたい。障がいがあることを含めて地域に受け入れてもらうことを願う。

(2) 高等部作業製品の一部価格変更について

○布加工班製品の価格変更(物価高によるランチバック(大)の値上げ)

○木工班製品の価格変更(端材利用による丸椅子の値下げ)

⇒特に意見なし

⇒販売価格の変更について承認を得た

6 会議のまとめ

出席した委員より、学校評価アンケートの集計結果と分析及び今後の改善の取組についての意見と賛同を得た。

来年度は、保護者や生徒が「答えやすい学校評価アンケート」になるよう表現を検討する。学校評価アンケートの結果の分析と当該協議の意見をもとに、「地域と連携した取組」について、特に近隣住民である向山団地との連携を深めていく。

当校の教育活動について、地域への発信のみならず、保護者への「伝わりやすい情報発信」の充実及び改善を進める。